

# 青森県の農林水産業

## 1 本県農林水産業の重要性

### 〔食料供給力〕

本県におけるカロリーベースの食料自給率（令和元年度概算値）は123%で全国第4位（図1-1）、生産額ベースの自給率（令和元年度概算値）では241%で、全国第3位（図1-2）の高い水準である。

### 〔経済波及効果〕

関連産業と合わせた生産額と就業者数は、それぞれ県全体の13.3%、21.8%を占め、県経済に占めるウエイトが高くなっている。関連産業と合わせた合計生産額は10,961億円で、これは農林漁業生産額の2.6倍に相当する（図2）。

### 〔農業・農村が持つ多面的な役割〕

本県農業・農村が有する県土保全などの公益的な機能を評価額にすると、1,700億円余りになり、農業産出額の約56%に相当する（図3）。

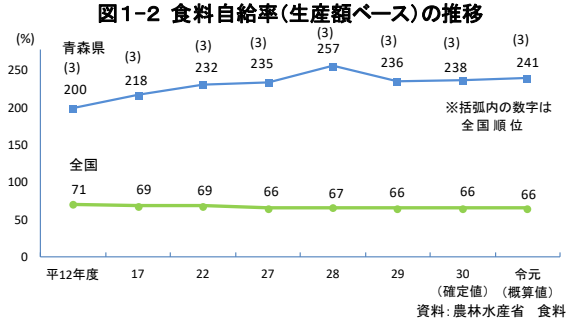
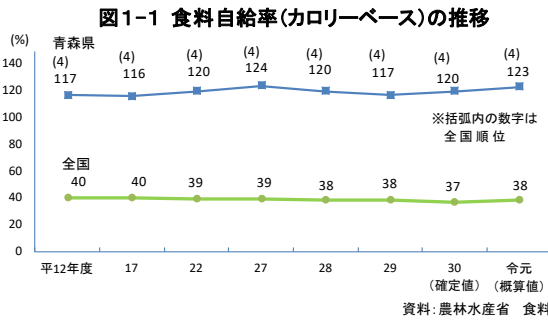


図2 農林漁業・食料関連産業の生産・就業規模(平成27年)

単位：億円

区分	農林漁業 A			食料関連産業				農林漁業 食料関連産業計 B	全産業合計	B/A
	農業	林漁業	計	関連製造業		飲食 サービス	計			
				食品工業	資材供給産業					
生産額(億円)	3,488	780	4,268	3,910	815	1,968	6,693	10,961	82,548	2.6
(構成比)	4.2%	0.9%	5.2%	4.7%	1.0%	2.4%	8.1%	13.3%	100%	
従事者数(千人)	78.1	10.2	88.3	24.8	0.5	31.0	56.3	144.6	662.6	1.6
(構成比)	11.8%	1.5%	13.3%	3.7%	0.1%	4.7%	8.5%	21.8%	100%	

資料：平成27年青森県産業連関表をもとに農林水産政策課が作成

<留意点>

(1)各生産額は産業連関表107部門表を使用、就業者数は雇用表を使用

(2)食品工業は食品品、飲料及びたばこの合計、資材供給産業は飼料・有機質肥料及び化学肥料の合計とした。

図3 公益的機能の評価額

(単位：億円、%)

評価対象機能の分類			評価額(年額)	
			金額A	構成比
自然環境保全	国土保全機能	洪水防止機能	1,055	60.6
		土壌浸食防止機能	15	0.9
		土砂崩壊防止機能	11	0.6
		水資源かん養機能	371	21.3
		大気浄化機能	3	0.2
		小計	1,455	83.6
	生物生態系保全機能	生物生態系保全機能	33	1.9
小計	33	1.9		
社会文化保全	アメニティ	景観保全機能	14	0.8
		観光・保健休養機能	206	11.8
		小計	220	12.6
	教育・文化	情操教育・福祉機能	18	1.0
		伝統文化保存機能	15	0.9
小計	33	1.9		
合計			1,741	100

資料：本県農業・農村の公益機能の評価(県農業研究推進センター(H12年3月))を基に  
県農林水産政策課で再試算(平成28年)

農業産出額との対比

公益的な役割の年間評価額 A	1,741億円
農業産出額 B	3,138億円
対比 A/B	55.5%

注)農業産出額は、令和元年

## 2 本県農林水産業の優位性・可能性

本県は、各種統計データや試験研究成果、現地の優れた事例などから、農林水産業を今後も伸ばすことができる可能性があり、これらを産地力強化の足がかりなどとして活用していくこととしている。

### 〔夏季冷涼など変化に富む気象〕

夏季は冷涼で日照が多い気象条件下にあり、関西以西などで収量や品質が低下する農作物を生産・販売できる。また、冬季は県南地域での多日照を生かした施設栽培が可能である（図1、図2）。

### 〔生産力が高い農地〕

生産力が高いとされる2等級以上の土壌が多く、農地も維持されており、品質、収量の維持・向上が可能である。また、地域別に特色のある土壌が分布し、幅広い作物の栽培が可能である（図3）。

### 〔安全な農産物を供給できる環境〕

病害虫の発生が少なく農薬の散布回数を低減でき、消費者の「安全・安心」で優れた農産物の生産供給が可能である。

### 〔多様な海域特性と好漁場〕

太平洋、津軽海峡、日本海と三方を海に囲まれ、我が国屈指の内湾である陸奥湾を抱えており、海域特性に応じた多様な漁業の展開が可能である。また、暖流と寒流が混合する太平洋沖合海域は世界的な好漁場であり、これを背景として大規模な水揚・加工機能が発達し、全国でも有数の産地として市場の拡大が期待できる。

### 〔改善される輸送体制と産地拡大の期待〕

道路網や予冷・貯蔵施設の整備、流通資材の開発・普及により、遠隔地への輸送体制が整っていることから、鮮度の高い農林水産物を全国に供給し、市場評価を高めることができる。

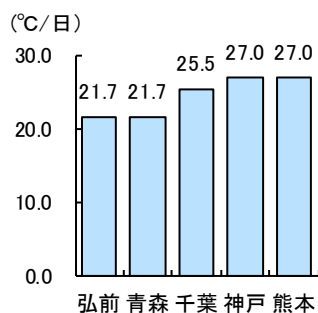
### 〔意欲的な担い手の存在〕

基幹的農業従事者（個人経営体）の平均年齢が全国で2番目に若くなっている。こうした人的資源を生かして農業を発展させていくことが可能である。

### 〔関連産業も含め広い分野へ波及〕

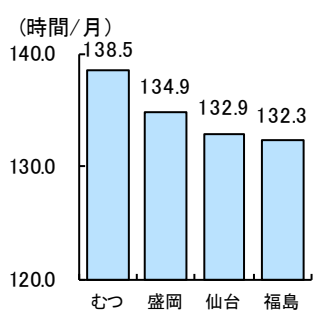
本県は、米、野菜、果実、畜産の生産バランスが良く、林産物や水産物も多いなど、加工資源が豊富にあることから、様々な加工品づくりに取り組むことができる。

図1 夏季の平均気温(7~9月)



注) 青森・弘前は県内最高の地点  
資料: アメダス平年値  
(1991~2020年)

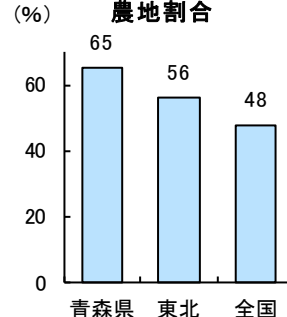
図2 夏季の日照時間(7~9月)



注) むつは県内の最小地点

資料: アメダス平年値  
(1991~2020年)

図3 全農地に占める2等級以上の農地割合



注) 生産力の阻害要因が少ない等級と2等級の合計

資料: 日本の耕地土壌の実態と対策(S52)